

# 市長が行く

No. 31

茂原市長 田中豊彦



## 釜石を訪問して

5月22日から23日にかけて、6トンの支援物資と共に岩手県の釜石市に行つてまいりました。釜石市の野田市長は、市役所庁舎が被災したため、災害対策本部となっているシープラザ釜石で、復旧と復興に向けて一生懸命陣頭指揮を執っておられました。



▲野田釜石市長(写真右)から被災状況の説明を受ける田中市長=5月22日シープラザ釜石にて

担当部長が現地を案内してくれましたが、甚大な災害を目の当たりにし、私達茂原からの訪問団は、改めて自然災害の恐ろしさを痛感いたしました。ギネスブックにも載つた世界一の防

波堤が無残にも壊され、あつという間に家も車も流されていつてしまったと説明を受け、万全だと思われる対策を立てていても、だめだったのかと無力感に打ちのめされる思いがいたしました。

中でも鶴住居町うのすまいでは、防災避難施設に82名の人が避難しましたが、訓練時には安全だからここに避難するようにと決められていた施設の中で、70名の方々が亡くなられたということで、「行政として強く責任を感じている」とも言っておられました。東北地方には昔から「津波でんでんこ」という言葉があつて、津波が来たらそれぞれが、てんでんばらばらに逃げろという言い伝えがあるのですが、それぞれが高台に早く逃げていたならこんなことにならなかつたかもしれないと……。

地震や津波のような災害時に尊い命を守るためにどのような判断をすればよいのか?大変難しい問題です。今回よく想定外という言葉が使われましたが、

自然を相手にして、人間にどこまで想定することが可能でしょうか?また国や県、市町村などの行政はどこまで責任を負うべきでしょうか?

「避難訓練をしていたことで助かった場合」「訓練したように行動しても助からなかった場合」「訓練にとらわれず状況を判断して助かった場合」今回のこの大地震は、無情にもそのときのそれぞれの判断で、生死を分けてしまいました。完全なセーフティマップはありません。茂原市でも防災マップを作成して市民の皆さんにお配りしたところですが、防災マップは、あくまでも、防災上の目安として判断していただけたらと思います。また避難訓練を行いながらも、常日頃からいざという時のことを考え、自分の判断をしっかり持つようにすることも必要だと考えます。

大自然の前には、人間の力は小さいかもしれません。しかし今後とも試行錯誤しながら、自然災害への対策を考えていくしかありません。